

トリートメントコーディネーターへの思い

医療法人創歯会 佐古歯科医院

江原 杏子

今回トリートメントコーディネーター(以下、TC)の講習会を受けて、これからTCは歯科医療において、もっと必要とされる存在であるべきであり、とても重要な役割を担う職種であると強く感じました。

他の受講生の方と違い、現在、私の職場ではTCのシステム自体もなければ、講習会で習ったような方法でじっくりと患者さんとお話することが少ない状態で毎日が過ぎていました。いつの頃からか、本当は患者様とじっくりとお話して処置に望みたいのにと時間を言い訳にしてここまでできてしまいました。それに対して違和感を感じ、患者様のためにより良い関係を築き、様々な情報をきちんと伝え、満足して歯科治療を受けて欲しいという思いから今回受講させて頂くことになりました。

臨床現場で歯科衛生士として働くなかで、たくさんお話し、患者様の様々な不安や悩みを聴き、双方の関係がより良いものになった時、ファン患者様も確立されることを肌で感じるがありました。これこそがTCの芯となるものだと感じています。

恥ずかしながら私自身、歯の大切さを実際に感じたのは遅かったほうです。ですが、患者様にも健康な歯で幸せな人生を楽しんで頂きたいと強く思うようになりました。

コンビニエンスストアより多いと言われている歯科医院。その数多くあるなかで出逢った患者様の口腔内を一生一緒に守っていく覚悟で、実際に処置する歯科医師、歯科衛生士だけではなく、私たちTCも患者様と向き合っていくべきだと思います。

人一倍食べるのが大好きな私。患者様にもずっと自分の歯で美味しいご飯を食べて幸せな生涯を過ごして欲しいのです。そのために、自分の口腔内の現状と向き合い、最良の選択をして頂くためにTCは必要不可欠な存在です。

まだまだ予防を目的に歯科医院に通院される方が少ない日本。痛くなってから行く歯科医院ではなく、自分で自分の歯を守るという意識の構築、美味しいご飯を自分の歯で食べるという幸せを伝えるということが、一人でも多くの日本人の歯を守ることに繋がるTCの大きな役割だと思います。

またTCは、生涯にわたり患者様の幸せに貢献するために、歯科医師・歯科衛生士などの専門職と一緒に患者様との架け橋のような存在になるべきだと感じました。

以前から歯科医院で働いていて、どこか美容院という場に似ている部分があ

るなど感じていました。

歯科医院に通いたくないと思ったことがある方は何をされるか分からないまま治療が始まるという体験をした方が多いと思います。

美容院では大抵、今回どんな髪型にしたいとか、どういう嗜好、生活背景があるのかなどカウンセリングしてから髪を切ります。

では、歯科医院ではどうでしょう。しっかりと説明もなく、まな板の鯉状態で治療が始まれば、どこか胸のうちに秘める不安感や不信感が蓄積されていきます。初診時だけでなく治療が進めば進むほど疑問点が出てきますが、先生は忙しそうにしている聞きにくいなどと感じている患者様もきっと多いと思います。そんな思いをする患者様をもう出したくないのです。

例え、美容院でその時と思った髪型ではなかったとしても、髪の毛は時間が経てば伸びてきます。しかし、歯は削ってしまえば戻りませんし、永久歯は抜いてしまえば一生萌出してきません。その重大さを患者様一人ひとりと向き合っているのかということに改めて気づかされました。そして、美容師さん同様、TCという職種に限られるものではないですが、カウンセリング技術だけでなく、患者様の様々な背景を引き出すためにも、雑談力を向上させ、会話の引き出しを増やし、TCとして、また人間としても成長したいと思います。

人生において、人との出逢いは財産です。講習会でも学びましたが、TCを通して運命だと感じてもらえる出逢いにしたいですし、この人に出逢ってよかったと思ってもらえるようなTCになることが大きな目標の一つです。

私が歯科衛生士になったきっかけの一つに、大学時代の友人の一言がありました。彼女は摂食障害で日々苦しんでいました。摂食障害とは食行動の重篤な障害を呈する精神疾患の一つで大きく拒食症と過食症に分類されます。その友人は過食症で、それ故の嘔吐を繰り返していました。そして胃液による酸蝕歯に悩んでいました。自分のせいだとは分かっていますが、歯科医院でそれはあなたのせいですからという具合にあしらわれたようです。その時に心理学を学んだことを生かし、患者様の気持ちに一番寄り添える医療従事者になりたいと思いましたし、友人にもそういう存在になって欲しいと言われたのを覚えています。たかが大学で4年間学んだだけですが、心理学を学んだという大きい武器は必ずTCをするにあたって役立ってくると思います。今後、またさらに心理学についても知識を深めていきたいですし、私自身、人と関わることや、話を聴くことが大好きなので、TCとして患者様の相談窓口のような存在になることが

理想です。

TCは、患者様が自分の現状に関して、それまでの歯科医師も含め専門職からどのような説明を受け、それに対してどのように感じたのかなど、これまでのプロセスに関する情報を患者様の視点や立場に沿った形で収集し、受容という捉え方で理解していく必要があります。例えしぶしぶ受診した患者様でも、まずは気乗りしないプロセスを振り返って理解し、しぶしぶながらも今回受診したことを肯定し評価するなど、患者様の置かれた立場を認める姿勢も重要になってくると思います。私は人一倍、相手の気持ち、立場にたって考えられることが長所だと自分自身感じているので、それを生かして望んでいきたいです。患者様のニーズに合わせるだけでなく、最良の医療と情報を伝えるべく、TCは存在するべきだと考えます。また、患者様から真に信頼される日本の歯科医院にはTCは欠かせない存在だと強く思います。

もっとTCという存在が日本中にもっと広まり、一人でも多くの患者様が満足し、幸せな毎を送れるようにTCとしてさらに邁進していきたいと思います。

以上、2448字